

南小国町



高橋 周二 町長

南小国町では、2050年における町のありたい姿を描いた「南小国町共有ビジョン」を掲げ、それに向けた「南小国町総合計画」および「総合戦略」を推進しております。特に私が注力していることは、「挑戦を生み出す町」になることであり、挑戦の“種火”をいかに町の中に伝播できるかということです。「南小国は地方の小さな町だからできない」のではなく、そのような「南小国だからこそできること」「南小国でなければできないこと」を常に模索し、果敢に挑戦しながら、笑顔が溢れる“上質な里山”を築きます。

寄付御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額100万円以上)
- ・感謝状贈呈
- ・地公体広報誌掲載
- ・HP掲載
- ・視察受入
- ・功労者表彰推薦
- ・紺綬褒章推薦
- ・その他

人口

総人口……3,712人
男……1,768人
女……1,944人
世帯数……1,662世帯

人口構成比

15歳未満……11.1%
15～64歳……48.3%
65歳以上……40.6%

面積

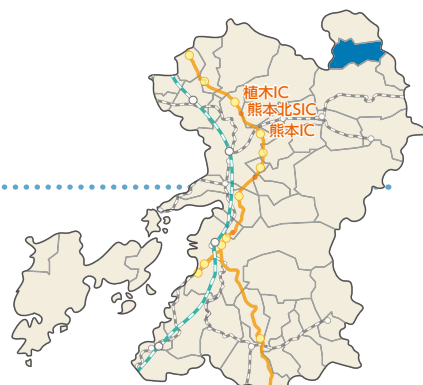
総面積……115.90km²
農用地……10.36km²(8.9%)
森林……92.79km²(80.0%)
宅地……1.26km²(1.0%)

教育機関

小学校……3校
中学校……1校
高等学校・高専……—
大学・専門学校他……—

産業構造

第1次産業……828(6.5%)
第2次産業……1,855(14.7%)
第3次産業……9,970(78.8%)
生産総額:百万円



交通アクセス

■南小国町役場まで
九州自動車道 熊本ICから……約60km
阿蘇くまもと空港から……約50km
JR 肥後大津駅から……約45km

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

南小国町まち・ひと・しごと創生推進計画

〈SDGs〉関連するゴール



笑顔が溢れる“上質な里山”

基本目標1

雇用の創出と次世代を担う人財の育成

築いてきた里山の自然、文化を守るため現在地域にある「しごと」の稼ぐ力を高めるとともに、地域内の人材育成と新たな「しごと」づくりへの挑戦を育てる。

基本目標2

人の連携と経済の循環による地域活力向上

町内外のヒト・モノ・コトをつなぎ、新たな連携や協働を創出。移住定住の受け入れ体制の整備。食物やエネルギー等の地産地消を推進し、地域内経済循環を高める。

基本目標3

皆が誇りを持って活躍できる地域社会の実現

町民の方々が、肉体的・精神的な健康を維持し、充実した人生をすごすための体制整備。なかでも、安心して子育てができる環境の充実と高齢者のいきがい・やりがいづくり。

基本目標4

誰一人取り残されず、安心して暮らせる町

交通弱者の不便さを解消するための移動手段の確保や生活支援。公共インフラの安全性の向上や防災機能の強化等を目的とした整備を促進し、安心安全な町を創る。

▶▶▶ 南小国町

重点
プロジェクト雇用を守り、増やし、創り出すとともに、
次世代を担う人材を育て活かす

分類 人材育成・確保

総事業費 500,000千円 寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2030年3月31日

数値目標 ●「法人町民税均等割の納税義務者数」及び「個人町民税の納税義務者で事業収入が年間120万円以上の者の数」の合計
..... 550社

挑戦の種火の伝播

私たちの使命は、「上質な里山」を次の世代へと繋ぐことです。そのためには現在の生業を守りつつ、町内外の人たちとの連携と協働によって新たな価値を創造していくこと。脈々と受け継がれてきた伝統文化・芸能の灯を、絶やすことなく紡いでいくこと。また、町の宝である次世代を担う子供たちの力を、地域で育むことといった「人財の育成」に注力します。どんなに小さな町であろうとも、人口が減少しようとも、そこに住む人々が輝いていれば、町も輝きを放つのだと思います。具体的には、まちづくり公社SMO南小国と連携しながら、町内外の起業や事業承継希望者の掘りおこし、事業計画の磨きあげ、関係者とのマッチング等を行い、各産業の更なる活性化および新規事業の創出を行います。また、一度失ったら取り戻すことのできない、伝統文化・芸能の次世代継承のための支援。教育関係では、町インターン事業や農泊体験といった郷土愛を育むプログラムの実施、プレゼンテーションを通じたコミュニケーション能力の向上などに努めます。また、先人たちが築いてきた里山の美しい景観を保つため、これらの破壊につながる行為の予防・規制をおこなうとともに、保護や維持の観点から、野焼きの負担軽減のための対策や町民主体による「日本で最も美しい村」づくりに資する活動を支援します。

〈SDGs〉関連するゴール



未来づくり起業塾の開催風景

重点
プロジェクト誰一人取り残されず、
安心して暮らし続けられる町をつくる

分類 まちづくり

総事業費 500,000千円 寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2030年3月31日

数値目標 ●共有ビジョン到達度アンケート結果(毎年度実施)における共有ビジョン「ら」「さ」に関する項目の10年後の将来像に対する到達度評価
..... (5段階)の平均値が4以上

笑顔が溢れる里山

まちづくりの原点は「人財」であり、その「人財」が「幸せ」を感じることで、また新たな活力が生まれます。一言で「幸せ」といって、それは人それぞれの価値観があり多様ですが、私たちはまず「不安」を最小化していくことに注力します。例えば、交通弱者や買い物弱者への支援。医療・介護等の連携による包括的ケアの推進。住民を支える道路や水道などの公共インフラの整備。近年の大規模自然災害に対する、地域防災・減災力の強化および再生可能エネルギーの普及によるエネルギーの地産地消の推進などです。なかでも交通弱者への対策としては、地元事業者と連携し可能な限りニーズに対応し利便性を高めることで、高齢者等の免許証自主返納へとつなげ、交通事故被害者を出さない取り組みを進めます。買い物弱者への対策としては、現在まちづくり公社であるSMO南小国が移動販売を担っておりますが、ニーズの多様化などから、車両の大型化や民間事業者への委託も検討していきます。包括的ケアの推進に関しては、医療機関や社会福祉協議会など関係団体との連携を密にし、IoT技術等を導入しながら、健康意識の醸成に努めます。エネルギーの地産地消の推進に関しては、本町が有する資源(木質バイオマス、小水力、太陽光等)の可能性を精査しながら利活用を進め、自然災害や原油価格の高騰などの外的要因に左右されないエネルギー政策を推進します。

〈SDGs〉関連するゴール



きよら温泉館の木質バイオマスボイラー

課題 1

移住者・次世代人財のための空き家再生



移住定住に向けた事業の様子

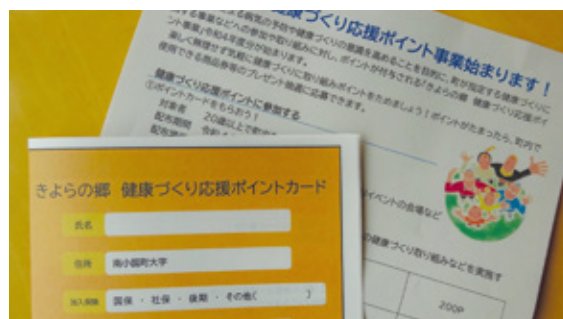
本町では、将来にわたり「上質な里山」を維持し、地域活性化を図るため、農林業、観光業の担い手や、移住者の確保に向けた施策を展開しています。

しかし、現状では、移住の際に一番に考慮される「すまい」が、民間賃貸住宅を含め大きく不足しているため、移住を断念されるケースも多くあります。一方で、町内の空き家は年々増えています。そのため、リフォームなどで空き家を「すまい」や「オフィス」等として再生する仕組みを進め、人の流れを生み出します。空き家再生に向けた様々なアイデアをお待ちしています。

課題 2

心と体の健康を維持し、活力ある人生を！

現在、働き盛りの世代において健診受診率が低いこともあり、特定健診やがん検診などを受診してポイントを貯める健康づくりポイント事業を令和3年度より開始しました。現在は、ポイントカードを紙媒体で配布していますが、今後は、健康関連データ（活動量・食事・睡眠）や医療関連データ（健診・受診・母子健康手帳等）を連動できる健康アプリ等を導入し、体調を数値化（見える化）することで幅広い世代の健康意識を高め、健康寿命を延伸したいと考えます。企業様のご支援をお願いします。



きよらの郷健康づくりポイント事業

課題 3

「食」の新たな可能性を切り拓く



南小国町の新鮮な野菜

南小国町では、清らかな水と土壌で育まれた美味しい食材があり、また代々受け継がれてきた伝統の食文化もあります。しかし、それらを加工する場の老朽化が進み、新たな付加価値を生み出すことが難しい状況です。また、人口減少や核家族化が進み、食文化の継承も難しくなっております。そこで町では、加工施設や調理施設等の整備をおこない、人財の育成を進めることで、町の「食」と「食文化」の新たな可能性を切り拓きたいと考えています。企業様の様々なアイデアをお待ちしています。

課題 4

次世代人財確保に向けた研修プログラム

本町では、町内産業の持続可能な発展に向けた施策を展開しています。しかし、昨今の少子高齢化の影響もあり、担い手となるべき若者の数が減少傾向にあります。一方で、新型コロナの世界的流行によるテレワークやリモートワークの導入により、都市部の若者が居住地に縛られずに仕事ができる環境が整いつつあります。

その状況を活かして、本町と都市部の若者をマッチングする機会を増やし、町内の産業に専業若しくは副業的に関わることができる次世代人財の確保に向けたプログラムをおこないます。



起業塾の様子

課題 5

美しい景観を次世代へ繋げる挑戦



受け継がれてきた里山の景観

南小国町では、代々人々の手により杉山や草原の維持管理を進めてきました。しかしながら、高齢化や少子化による担い手不足等により、荒廃する田畑や杉山、草原などの面積も広がりつつあります。そこで、AIやIoTの技術の導入および機械化の普及などにより、生産性の向上をはかりながら、美しい杉山や草原、里山の景観を残していきたいと考えます。また、杉に関しては、建築資材のみならず多様な利活用の可能性を模索し、新たな価値を生み出したいと考えます。企業様の持つノウハウや様々なアイデアをお待ちしています。

課題 6

より安全な林業の作業環境をつくりたい

林業については担い手不足も深刻化していますが、その一因として危険度の高い作業環境も関係しています。南小国町でも作業中の倒木等による事故やケガなどが発生しており、これらの事故防止や対策が急がれています。林業事故の多くは携帯電話の圏外である山林内において発生していることから、町では山間部に簡易的な通信システムを整備し、事故発生時の緊急連絡体制を確保します。作業環境の安全性を向上させる事で、担い手の定着を促し、美しい山林を後世に残していきたいと考えています。



整備を目指す電波中継器

課題 7

再エネを活用した災害時対応力の強化



豪雨による被害

本町は中山間地であるため、梅雨時期の大雨などにより、土砂崩れや河川の氾濫などによる道路寸断の危険があります。町として、災害対応への取組も進めていますが、個々の避難所で自立した電源確保の導入等を進める必要性を感じております。一方で、再生可能エネルギー導入ロードマップを策定し、再生可能エネルギーの導入を進めているところであるため、太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーを活用し、有事の際に各避難所でも安定供給が行える再エネの電力インフラのレジリエンス強化を進めていきます。

課題 8

観光客の満足度向上のための環境整備

本町には、押戸石の丘、マゼノ溪谷、清流の森やすずめ地獄など、本町ならではの景観を楽しむ観光地がいくつもあります。しかしながら、熊本地震や令和2年7月豪雨などの度重なる災害の影響もあり、舗装やトイレの老朽化対策が後回しとなっており、観光スポットを最大限に楽しめる状況にはなっていません。

そのため、道路を舗装するなど観光地へのアクセスを改善し、また、トイレを改修・新規設置するなど観光地での快適さを充実させることで、観光客の満足度向上を図ります。ぜひご支援をお願いします。



押戸石の丘